

七十七ビジネス大賞受賞

第28回(2025年度)

企業 インタビュー

Interview

河北建設株式会社

代表取締役 渡邊 和彦 氏



会社概要

住 所：仙台市太白区泉崎二丁目23-41

設 立：1969年

資 本 金：60百万円

事業内容：総合土木建築工事業

従業員数：130名

電 話：022 (245) 5351

U R L：https://www.kahoku-kk.com/

「すべての人が安心できるものをつくる」を経営理念とし、ダム建設や発電所等の大型土木工事で培った高い技術力と豊富な経験で、災害に強い街づくりに貢献する総合建設会社

今回は「七十七ビジネス大賞」を受賞された、河北建設株式会社を訪ねました。同社は仙台市に本社を置く県内有数の総合建築会社です。河川・海岸工事、上下水道等の各種土木工事を手掛け、地域のインフラ整備を担っています。国土交通省が推進するi-Constructionを積極的に実践し、建設現場での生産性向上、建設業の新3K（給与、休暇、希望）の実現に取り組んでいます。同社の渡邊社長に、事業内容や創業経緯等についてお伺いしました。

——七十七ビジネス大賞を受賞されたご感想をお願いします。

非常にありがたく、宮城県に拠点を置く会社として歴史のある七十七の冠が付いた賞を受賞することができ、大変嬉しく思っております。賞をいただけるだけでも大変栄誉なことですが、やはり大賞をいただいたということで、その名に恥じないように今後ともしっかり事業を継続していきたいと思っております。

受賞後はとても大きな反響がありました。多くの方から電話をいただいたり、手紙で祝福をいただいたりして、未だにお会いする方から「おめでとう。」とお声掛けいただくこともあります。メディアにも取り上げていただけたことで、弊社のPRにもなっています。

——どのようなきっかけで申込みされましたか。

弊社の総務部からの提案で応募を検討し始めました。弊社は今年で創業57年になりますが、これまで弊社が行ってきた社会活動・地域貢献活動といった実績が、どのように評価していただけるのか私自

身も期待するところがあり、挑戦した次第です。

また、建設業は若手社員が少なく、担い手も少ないことが非常に大きな課題となっています。弊社も例外なくこの課題を抱えています。建設業は国土をつくる仕事です。先輩方が築き上げてきた技術や技能を継承できなければ、地域社会にとって大変な損失になると考えています。ですから弊社がビジネス大賞に挑戦して大賞をいただければ、若い方にも建設業というフィールドに少しでも関心を持っていただけるような、PRにもなれば良いと願い応募したところもあります。

白河の関 以北を担う

——御社の事業内容について教えてください。

弊社は昭和44年6月に創業した総合土木建設工事業者です。創業当時は高度経済成長期による圧倒的な工事需要があり、大きなプロジェクトも増えている時代でした。現在まで「すべての暮らしに安心を」を基本理念に、持続可能で豊かな未来をつくるために福島県白河の関より北のエリアの総合土木建築工事を担っています。社名の由来も白河の関より北の工事を請け負うという意味で名づけられたと聞いています。

弊社はダム建設や発電所等の大型工事から、河川・海岸工事、上下水道工事、橋梁下部工工事、道路改良工事、造成工事、都市土木工事等の地域インフラ整備まで色々な工事を担っておりますが、主にダム建設や発電所建設等の大型土木工事を得意としており、これまで45か所程の建設を手掛けてまいりました。弊社にはこれまでの施工経験から多様な技能や知識を持っている技術者が沢山いるので、元請工事に限らず、下請工事まで幅広くプロジェクトを引き受けられることも強みであります。

評価実績（一部抜粋）

2025年度 仙台市 地元発注顕彰 (国) 286号 (南赤石) 1号橋梁下部工工事
2024年度 仙台市 優良工事表彰 郡山折立線 (大野田工区) 橋梁撤去・下部工工事
2023年度 仙台市 優良工事表彰 令和3年度高砂堀水路対策工事



平成23年度県交安一種02101-A04号
西川橋橋梁下部工工事



津軽ダム本体建設工事



H25梅ヶ沢I地区 (県営海岸災) -A81号梅ヶ沢I
海岸外災害復旧及び農地復旧除塩工事



木町通交差点改良工事

——事業を行なう中で印象深かった出来事を教えてください。

オイルショック、バブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災と色々なことを乗り越えてまいりました。建設業の絶頂期に80兆円程度あった国の建設投資費が30兆～40兆円に下がった時もあり、事業内容が厳しい時期もありましたが、やはり東日本大震災は大変印象に残っています。3階建ての本社ビルが倒壊し、2階建てのように潰れてしまって非常にショックでした。地震発生後、当時の社長が「頼まれた仕事は一切断るな。」という指示を出しまして、本社の寮を急造の事務所として社員一同、一生懸命仕事をしたことが非常に記憶に残っています。多くの協力会社から助けていただき乗り越えることができました。

嬉しいこととして印象に残っているのは、天皇陛下からいただく瑞宝単光章表彰者を弊社から3名輩出できたことです。社員が勲章をいただけたことは会社として非常に栄誉なことですので嬉しい限りです。勲章をいただくためには、これまでの工事実績や人柄など沢山の資料が必要で、推薦状の作成もかなり大変ではありますが、今後4人目、5人目と叙勲技能者を輩出できるように、さらに社員を育てていきたいと思えます。



集合写真

——技術力向上、人材育成の取り組みについて教えてください。

弊社では技術力向上、若手育成、社員育成のために社内教育と社外教育の2つの教育方法を取り入れております。社内教育は主に工事部と安全部が受け持っており、予算、見積書の作成方法、測定のやり

方、CAD（Computer-Aided Design:設計や製図に用いられるデジタルツール）の使い方など、カリキュラムを作成して学んでもらいます。年代によって学んでもらうカリキュラムを変えていて、施工技術だけでなく予算や見積書の作り方などの教育もしています。

社外教育では静岡県にある富士教育訓練センターという建設業に特化した訓練センターに依頼をして、施工管理や測量を2週間から1カ月程度、寝泊まりしながら学んでもらっています。新入社員は必須で、20代～30代の若手社員を中心に勉強しに行ってもらっていますが、研修という形で、希望すれば誰でも行けるようにしています。研修中は現場の仕事が出来なくなってしまうのですが、きちんと勉強をして本人の不安も取り除いた状態で現場に入ってもらえるように環境を作っています。少し昔でしたら、入社したらすぐに現場に入って先輩方から教わるという流れでしたが、実際現場ではきちんと教えられる余裕があるとは限りませんし、教えることも大変ですので研修の場を現場外に設けています。毎年希望を取って年間およそ3～4人程度が研修に行っています。

弊社ではISOで品質・環境・安全を取得しており、安全に関する方針・目標を明確にすることで安全性を確保しています。これからもOJT、OFF-JTを上手く活用して、社員の育成に取り組んでまいります。



本体外観

ものづくりの見える化

——i-Constructionの取り組みについて教えてください。

弊社ではICTソリューション室という部署を作ってICTに取り組んでいます。元請工事に関しては全ての現場にICTを取り入れ、本社で支援をしています。現場では、ドローンによる点群データを測量した3次元データをもとにパソコンで図面化する他、3Dプリンタを使用して建設予定の模型を作成することで、施工時に工夫が必要な箇所や難易度などを事前に確認できるようになりました。

取り組んだきっかけは、これから課題とされる少子高齢化や生産性の向上を考えた時に、ICTやITを避けて通ることはできないと思ったからです。今ではだいぶ浸透してきたICTの取り組みも、初めて社員に話した時は、全員がスムーズに受け入れてくれた訳ではありませんでした。正直なところ、弊社でメインに仕事をいただいている発注者さんにも、ICTを活用した施工に関する規程がなく、取り組んでも取り組まなくても問題はありませんでした。ですが、どんどん加速している少子高齢化や技術者不足を解決するために生産性向上を考えると、やはりICTが必要で、ものづくりを見える化していかないと時代から取り残されてしまうという危機感がありました。

社内ではICTに取り組むために講習会を開くことから始めましたが、発注者さんから求められていないということもあり、なかなか手が挙がらなくて苦労しました。そこで最初に専門部署のICTソリューション室という部署を作ってしまった、ICTソリューション室でデータ作成の補助や現場のサポートを始めました。入り方を変えたら、前向きにICT化を考えてくれる社員が増えて一緒に取り組んでもらえるようになりました。

現場に配置できる人の数には限りがある中で、社内処理も施工も測量もやらなくてはいけないとなるとどうしても残業が積み重なってしまいます。ですからできるだけ分業化して、本社でサポートするように工夫しています。災害復旧になるとどうしても休みは取れなくなってしまいますが、残業時間をかなり減らすことができ、弊社ではほとんどの社員が完全週休2日制で休みを取得しています。

今後はITやAIなどを積極的に取り込んだ施工管理や安全管理を進めていきたいと考えています。我々の仕事は建築工事と違い、市街地だけでなく山間部での作業も多いことから、通信手段などの課題もあります。今は日々作業データも蓄積されていますので、これから更に現場のサポート体制を強化できるように計画しています。生成AIなども活用しながら、社員の負担を減らした働き方を考えていきたいです。



ドローンで撮影した施工現場

——地域貢献・社会貢献のために取り組まれていることを教えてください。

地域貢献活動として、町内会の餅つき大会と定期的な清掃活動に取り組んでいます。餅つき大会を始めて12～13年が経ちますが、当初は社内の年末行事として行っていました。だんだん地域の方がいらっしゃるようになり、折角ならということで、町内会さん・子供会さんを含めたイベントとして毎年12月の第二土曜日に開催しています。町内会さんと子供会さんからは年末が近づくと「今年も開催しますよね？」と期待のお話が来ますので、我々も嬉しいです。弊社の駐車場にテントを張って、大体6升のもち米を臼と杵でつきます。最近餅と言えば

市販の切り餅が主流ですが、子供たちには日本の伝統や季節の行事に触れてほしいという思いで、昔ながらの方法で開催しています。地域の皆さんにも大変喜んでいただけますし、毎回感謝状をいただいております。弊社一同良い思い出作りにもなっています。子供たちにとっても、子供の頃にあそこの建設会社で餅つきしたなと少しでも思い出になっていたら嬉しい限りです。

清掃活動は始めてから20年程になります。毎月第3金曜日に弊社の位置する泉崎町内会を歩いてゴミ拾いをしています。ゴミ拾いを始めた当初と比べるとゴミはほとんど見かけなくなりました。ゴミ拾いをしていると町内会の方も声を掛けてくれますし、年々ゴミを見かけなくなっているのでも町内を綺麗にしようという気持ちが広がっていたら非常に嬉しいです。また、広瀬川の清掃プロジェクトにも参加しています。参加し始めた当初は自転車などの大きなゴミも多かったのですが、今では小さなゴミばかりで、ほとんどゴミが無くなったと感じています。これからも清掃活動を続けていきたいです。

環境への配慮については、使用する建設機械はもとより工法についてもカーボンニュートラルに取り組まなければなりません。弊社では、会議において紙を使用しないこと、タブレットやPCを活用することを徹底しています。工事においてもできるだけCO₂を排出しない、吸収する施工を心掛けています。弊社だけでは難しいところもありますので、発注者や元請企業とも協力体制を築いていきたいと考えています。



餅つき大会の様子



町内会からいただいた感謝状

地域の町医者として

——今後の展望についてお聞かせください。

あまり大きなことは言えませんが、仙台は東北のハブであり、東北各県から人が集まって来る街ですので、首都圏からもリターンしてもらえるような住みやすい街づくりに貢献したいと考えています。土木工事というのは、ただ道路や橋をつくるのではなく、国をつくっていると考えています。我々の仕事は地域の町医者です。経世済民という言葉がありますが、国土をつくって、困っている人を助けるような誇りを感じながら仕事をしているので、災害のない街、人が集まる街づくりにしっかり貢献できるようにしないといけないと思っています。

建設業界全体の展望として、もう少し社会的な尊敬を受けても良いのではないかと考えています。アジアに比べて欧米の建設技能者は待遇もよく、尊敬されています。また、人口が減少する中でAIを上手く使って生産性を上げていくことがこれからの時代に求められていますが、ものづくりにおいては、まだまだ人の力が重要です。これまでお客様第一でお客様を中心に会社は動きがちでしたが、コンピュータに頼れる時代だからこそ目線はお客様から社員にも向かわなくてはいけないと感じています。お客様が大事なのももちろんですが、社員を大事にする会社でありたいです。建設業は無くしてはならない産業で仕事は大変ですが、やりがいもあります。将来に向けて人が集まって来る魅力ある産業にしなければならないと思っています。

——会社経営で大切だと思うことについて教えてください。

社員を大事にする会社を目指さなければならないと考えていますし、時代の変化に対応できる会社が生き残れると思っています。時代はどんどん変化していますので、問題に対応できる柔軟に聞く力と積極的な行動を起こす決断力が求められると思います。また、お客様が大事なのは当たり前ですが、やはり社員にも視線を向けていかないといけないと考えています。会社として良い環境でないと若い人たちは集まって来ないと思いますので、社員が働きやすいように、給与や福利厚生などの待遇も更によくできるようにしたいです。

これから時代がどのように変化していくかは分かりませんが、経営者は大変な仕事です。常に困難が立ちまわっている中で、会社を背負っていかねばなりません。背負っているものが大きいので大変ですが、悪いこともあればその先に良いことも待っていると自分を奮い立たせて頑張っていかなければなりません。我々、地域建設業がしっかり発信していくことで東北の明るい未来が見えてくると考え、一生懸命事業に取り組んでまいります。



安全祈願式の様子

——これから経営を担う方へアドバイスをお願いします。

自分の周りを見て、状況を知ることが大事だと思います。自分が置かれている立場がどういう立場なのかを知ることから始まり、どういうことをしていないといけないのか、それにはやはり、よく人の

話を聞いてどういう決断をし行動するのか「決断力」と「実行力」が大事だと思います。そういう意味で考えていくと、どういう風にすれば成功するかではなく、何を求められているのかを知ることが大事ですね。不安定な時代ですから、しっかり挑戦していく心掛けも大事ですので、恐れずに挑戦してみてください。

今年で東日本大震災から15年が経ちますが、あのどん底から立ち直った経験を思い出し、不幸の先には必ず幸せが来ることを信じて「がんばろう東北、がんばろう宮城、がんばろう仙台」を思い出しましょう。



渡邊社長

長時間にわたるインタビューありがとうございました。御社の今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。

(2026.1.27 取材)